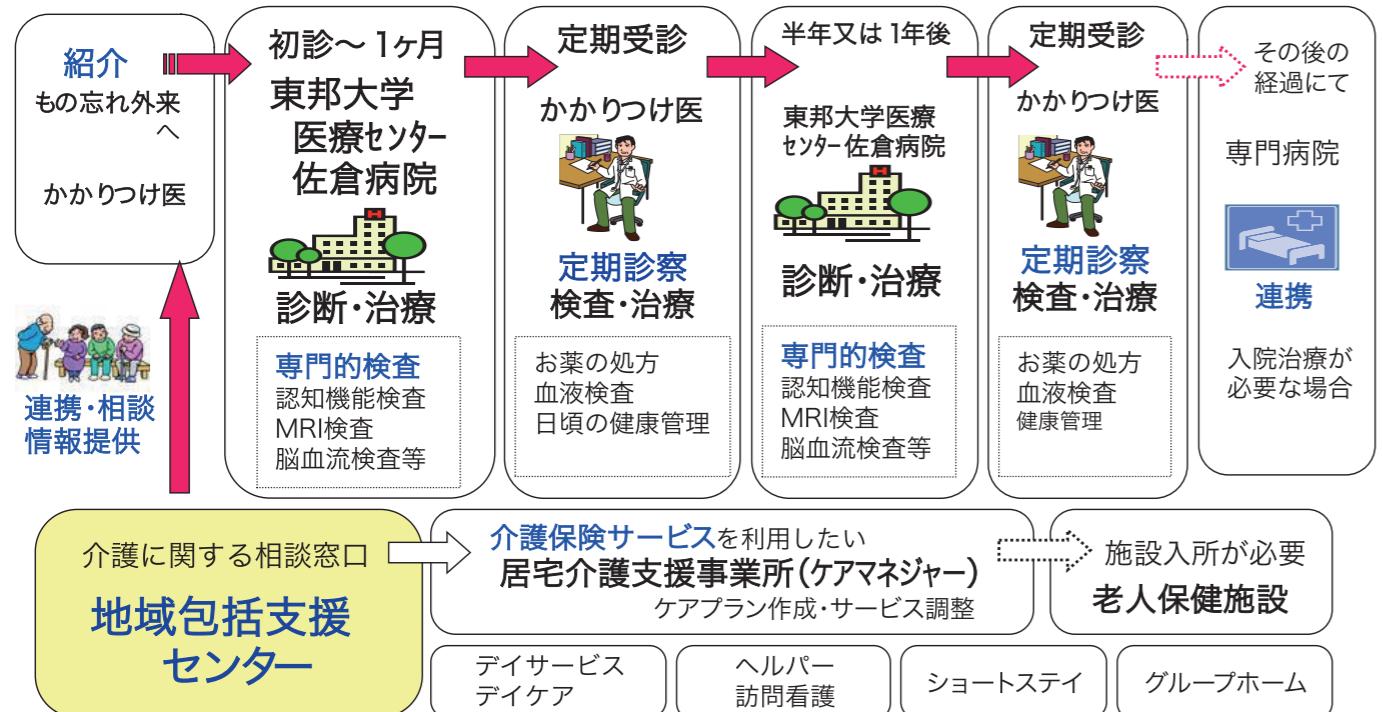


知っておきたい福祉の制度～認知症地域連携ネットワーク～

医療連携・患者支援センター ソーシャルワーカー 鈴木 恵子

‘認知症’と診断されたらどこに何を相談したらよいでしょう?検査やお薬のことは医療機関に、介護や日々の生活のことは地域包括支援センターやケアマネジャーに相談できる連携ネットワークがあります。また、地域のクリニックと神経内科もの忘れ外来との連携を深め、ふだんは地域のかかりつけの先生に、専門的検査が必要な時には当院に受診いただくシステムづくりを進めます。このように佐倉市では‘認知症にやさしいまち佐倉’として認知症ケアのシステム作りが始まっています。当院でも、もの忘れ外来にて愛称‘さくらバス’をお渡しし、対象の患者さんへ地域の医療と介護を結ぶネットワークをご活用いただけます。

認知症地域連携ネットワークパス‘さくらバス’



外来受診のご案内

- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:30
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

編集後記

明けましておめでとうございます。今回、地域医療連携、市民公開講座、炎症性腸疾患について取り上げました。いずれも基幹病院・大学病院として重要なテーマです。特に地域医療連携は医療機関同士が協力し合って地域の患者さんを支えるため、当院でも力を入れています。

昨年の暮れに2011年の「今年の漢字」が「絆」と発表されました。この「さくらだより」が今年も患者さん、医師会の先生方、当院、そして多くの関係者の方々との「絆」の橋渡しを出来ればと思います。

SAKURAdayori

東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

新年に寄せて

病院長 田上 恵

上させてくれます。



●自然・生命・人間

しづかに自分の心を大自然の偉大な力に通わせながら人間として生きるだけ生き
そして社会のため人類のために
はたらくだけ働いてみようではないか

この言葉は、東邦大学全体を支える学祖の建学の理念である「自然・生命・人間」に記された最後の言葉です。当院ロビーの額に大きく飾られています。この書は著名な書家 惠濟氏(本院職員)によるものであることはご存知でしたでしょうか。

●「東邦大病院」と呼んでください。

東邦大学医療センター佐倉病院は、地域の皆様方に「東邦病院」と呼ばれ親しんでいただいております。

私達は「東邦大病院」と呼んでほしいとの思いで、機会があることにお願いしております。これは現在、佐倉病院の教職員は大学の看板を背負っていることを強く意識し、またそれを誇りとし、それに相応しい医療を提供したいと心を一つにしているからです。病院もこの思いで人材、施設、機器の充実をはかっています。大学病院は「診療、教育、研究」を三本柱としています。医学生、研修医を一流の医師になるよう育てています。今年は研究施設も拡充します。これらが、さらに医療の質を向

●自動精算機の設置

外来患者数が一日1,500人を超えるようになり、患者さんの待ち時間短縮の為に新年度には、自動精算機を設置いたします。

今年は待ち時間問題を最重要事項として取り組みます。

「東の佐倉・西の長崎」と言われた西洋医学の発祥の地である佐倉を「医療の町・佐倉」にするために、教職員が一丸となり、市政とともに、地域の皆様と一緒にした病院を目指していきます。

市民公開講座「動脈硬化」～我々が学ばせていただいたこと～

糖尿病内分泌代謝センター 齋木 厚人

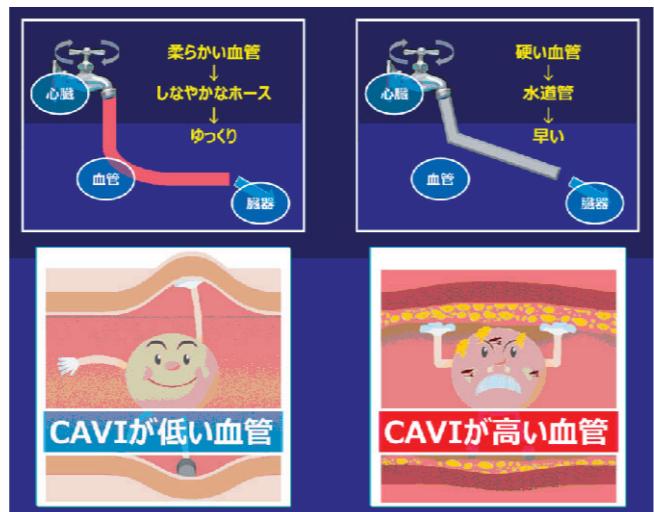
昨年10月、「動脈硬化」をテーマにした市民公開講座で、循環器センターの杉山医師からは動脈硬化性疾患の早期発見を目的とした画像診断について、飯塚医師からは虚血性心疾患の治療法について、私からは血管の硬さを調べることができる新しい検査法「CAVI」について、お話しする機会を頂きました。活発な質疑応答もあって、予定の2時間で1時間近く超過するほどの大盛況でありました。感謝とお詫びの気持ちを申し上げますと同時に、動脈硬化に対する関心の高さを肌で感じることができ、医療者として引き締まる気持ちを頂きました。

年々増加している動脈硬化性疾患に対し、画像診断やカテーテル治療などの先進的な医療技術は格段の進歩を遂げています。当院では、不幸にも地域の皆さんが突然の病に襲われたときには、循環器センターの医師を中心とした救急医療チームが全力で治療にあたります。我々医療者のこのような取り組みは、社会にささやかながら貢献しているのではないかと自負しております。

一方、高度化・複雑化する社会の中で私たちの生活習慣は大きく変化し、そして私たちの体は肥満、糖尿病、高血圧などの様々な危険因子に脅かされています。血管はこれらの危険因子が重なることで水道管のように硬く(図:CAVIが高くなる)なりますが、治療でしなやかに改善する(図:CAVIが低くなる)ことも分かってきました。しかし、例えば同じ肥満糖尿病の治療でも、薬で血糖を下げるのと、減量して根本治療するのとでは、後者の方が明らかにCAVIの改善

が優れています。生活習慣改善、言葉にすると簡単ですが、個人にとっても地域にとってもこれほど難しい課題はありません。当院では、この地域が日本一の肥満症治療地域になることを目指し、体制の充実を推し進めていきます。

関連する話題としまして、1月28日に糖尿病の足病変をテーマとした市民公開講座を開催します。予防的観点からは当センターの大平医師と玉川看護師が、治療法については形成外科の三沢医師が分かりやすく解説いたします。また春以降には、当院の先進的な肥満外科治療を含めた肥満症チーム医療の紹介を予定しています。いずれの会にも、ぜひ、多くの方のご参加をお待ちしております!



2012年 市民公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
1月28日(土) (テーマ変更)	<糖尿病>糖尿病の予防と治療・フトケア 糖尿病性足潰瘍の保存療法と手術	糖尿病・内分泌・代謝センター 看護部 形成外科
2月25日(土) (テーマ変更)	「めまいを起こさないためには…」 「難聴・耳鳴は何故おこるか」	耳鼻咽喉科 難聴・めまい回復センター
3月24日(土)	<帯状疱疹> <帯状疱疹後神経痛>	皮膚科 麻酔科
4月7日(土)	「歩行障害」と共に歩む “診断と治療”	神経内科・脳神経外科・整形外科 薬剤部・リハビリテーション部・看護部 メディカルソーシャルワーカー
5月26日(土)	<肥満>	糖尿病・内分泌・代謝センター
6月23日(土)	<心不全>	循環器センター

先の案内(Vol.7,2011年7月発行)では本年1月に『めまい』を、2月に『糖尿病』を予定しておりましたが、上記のように変更させて頂きます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

当院ではほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただ

き、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立つようにと考えています。いずれの講座も14時から当院東棟7階講堂で開催する予定です。詳細はテーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課までご連絡下さい。

佐倉病院消化器センターにおける炎症性腸疾患診療

消化器内科 鈴木 康夫

前回(7号,2011年7月発行)述べましたように、当消化器センターでは難病指定疾患である炎症性腸疾患(IBD/潰瘍性大腸炎:UCとクローン病:CD)の診断・治療および研究を行っています。今回はその具体的な内容を簡単に紹介いたします。

IBDの診断は簡単ではありません。胃癌や大腸癌の診断では癌細胞が証明されれば、世界中だれもが癌と診断します。しかし、IBDにおいては癌細胞に相当するような顕微鏡検査によって確診の得られる所見はありません。診断の主な根拠は、レントゲン検査や内視鏡検査により特徴的画像を見つけ出しその組み合わせに基づきますが、類似した所見を呈する他の病気が少なくなく注意が必要です。診断には経験が必要とされることや世界統一基準がないことも診断を困難にする原因となっています。当消化器センターは全国有数のIBD拠点病院として多くの経験と最新情報が集約されています。最近ではカプセル内視鏡検査や小腸バルーン内視鏡検査あるいは最新型CTを用いた画像解析法など最新検査法を積極的に応用し可能な限り正確な診断に努めています。

次に当消化器センターIBD治療の現況をお話しいたします。UCとCDは既にお話ししたように、未だ原因不明であることから残念ながら完治を可能にする治療法は存在しません。従って、迅速・確実に症状を緩和させ長期に再発を予防する治療法の実施が望まれますが、世界中で急速にIBD患者さんが増加しつつある現況から、最近のIBD治療の新規開発はものすごい勢いで進化し、その中には既に一般病院でも実施可能なものもあります。当消化器センターは最新治療の開発時から治験として積極的に参加するばかりではなく、新規治療法の応用や独自に有効な治療法の開発を行い大きな成果を上げ世界に向けて発信しています。日本で初めて開発応用された白血球除去療法やIBD治療の中心的薬剤となりつつある抗TNF-α抗体製剤の実績数は日本一の大学病院となっています。日本でも今後IBDの患者さんが増加し続けると予想され、当消化器センターへ受診される患者数も同様に増加すると思われます。我々消化器センターの職員は一丸となって、難病であるIBDを克服するため世界で最も優れた高品質の診療を安全に迅速に提供するよう日々邁進していく所存です。

急性期病院の機能と医療連携

医療連携・患者支援センター 小沢 正成

で経過観察を行います。

このように地域の医療機関の連携が必須となっている現在、当院では勉強会や講演会を定期的に開催し、地域の医療機関などとの連携を深めることで地域全体での医療・福祉の質の向上を目指しております。適切な「キュア」と「ケア」を皆さんに提供できるような橋渡しをするのが、医療連携・患者支援センターの使命です。2階の正面玄関入ってすぐ左手に当センターはございます。何かお困りの点がありましたら、どうぞ遠慮なくお越しください。

〈医療連携・患者支援センターは2階正面玄関左です〉

